# マータンコ由来

昔、津堅村では、霜月の１４日になると、海から７つの首をもつ蛇の怪物が現れ、人を食べなければ何日でも暴れまわり、村人を苦しめていました。

村人は、「このままではいけない、全員でクジをひいて誰の娘に決まってもいけにえとしてだそう」と話し合い、１０月１３日にニンギ浜でクジをひくことにしました。クジをひくと、１７、8になる娘がいけにえに決まりました。

いけにえになる娘とその家族は嘆き悲しみ、娘を前に泣いていると、御蔵里主（うくらさとぬし）が通りかかり、「どうしてあなた方は娘を前に泣いているのですか」と尋ねてきました。

娘の家族がこれまでのいきさつを御蔵里主に話すと、御蔵里主はこう言いました。「わかった。そうであるなら、村中から酒を集めて７つのかめに酒を満たし、怪物が現れる場所に用意しよう。その上にやぐらを造り、酒がめに顔がうつるように娘を上に座らせておきなさい。そうすればそれを人間と思い怪物は７つのかめの酒をそれぞれに飲むだろう。酒に酔ったところを退治すればいい」と教えてくれました。

村人は、教えられたとおりにやぐらを造り、娘をその上に座らせ怪物を待ちました。その日はよい天気になり、怪物は酒がめにうつった娘を食べようと７つの首をかめのなかにつっこみ、酒を飲みほしてしまいました。怪物が酔って動けなくなったところを、御蔵里主が太刀でもって退治したのです。村人は大いに喜び、御蔵里主を神として崇めました。

それ以後、津堅・神谷村では御蔵里主の恩を忘れないために御蔵里主をたたえて、マータンコ行事を行うようになったそうです。

イラスト／伊禮頼子

**津堅島**

面積：1.75km²
人口：577人
世帯：276世帯

※人口・世帯数は、2008年2月末日現在

◎ 交通アクセス ◎

平敷屋漁港より船にて15分

●記念スタンプを押そう！●


沖縄県うるま市教育委員会

〒904-2392　沖縄県うるま市勝連平安名3047
TEL：（098）978-7245


撮影／寺下昌信

うるま市文化財シリーズ 5

# 津堅島

TSUKEN

―ちきんあかっちゃ―

## 津堅赤人

津堅赤人は、１８００年代に活躍した武術者で、津堅親方に空手と棒術を習い、相当の達人だったと伝えられています。彼は、身の丈が六尺（１８０cm）余りの大男で、彼にまつわる様々なエピソードが残されています。当時の武術者仲間には有名な人で、民に依拠した英雄として、今もなお慕われています。

ある日、赤人は漁の途中で暴風雨に遭い、朝鮮半島へ漂流しました。その時に、虎に襲われた赤人は、おおきな山猫に襲われたと思い、退治すると実は皆が恐がる人食い虎で、地元の人々に人食い虎退治の恩人として感謝され厚いもてなしを受けました。

## 津堅島

津堅島は、沖縄本島中部勝連半島の南東約５ｋｍに位置し、周囲約８ｋｍ、面積１.７５ｋｍ²の平坦な地形の島で、琉球石灰岩を基盤とし島尻層が少し見られます。

かつては、津堅と神谷村の２ヵ所に分かれていましたが、明治３６年土地整理完了のころ合併して津堅１カ村となりました。尚豊代寛永３年（１６２６年）のころには島尻郡大里間切に属し、その後西原間切に移り、尚貞代延宝４年（１６７６年）、勝連間切に編入されました。

島の中で一番高い新川グスクは海抜３７.５ｍのところにあり、この丘に登ると、東に太平洋、西に沖縄本島そして島の全景を眺めることができます。また、中城湾の入口に位置し、南側はホワイトビーチの出入り航路になっています。島の周囲には、セナハ浜、アギ浜、キガ浜、和名浜、ヤジリ浜、泊浜などの砂丘が多く見られ、島を取り囲む形でリーフが発達しており、砂丘とリーフまでの間は、魚貝類の宝庫です。

島の土質は根菜類の栽培に適し、戦前は津堅大根の名声をあげていました。現在は人参の産地として、味、品質ともに好評です。


沖縄県うるま市教育委員会

# 津堅島の文化財

## 2 ホートガー

鳩がみつけた泉という伝説からホートガーと言われています。昔、日照り続きで水の無いとき、鳩だけがいつも羽をぬらしていました。不思議に思ったシマの人が、鳩の下りたつところを掘り下げてみると泉を発見しました。この泉は、永い間シマの人々の大切な飲料水などに使用されました。

マカー

ホートガーのそばに鍾乳石をご神体とする小さな祠があります。この石は「マカー」と呼ばれ、丁度男女が抱き合っている姿をしているため、子孫繁栄の神として崇められています。

## 5 クボウグスクとその植物群落

クボウグスクは、島の西海岸に突き出た琉球石灰岩の上に築かれています。

グスクは、標高約２９ｍをピークに野面積みの石積を巡らしており、周辺からは１４～１５世紀の輸入陶磁器が採集されています。

グスク一帯は、拝所として古くから崇められ保護されており、タブノキやヤブニッケイ・オオハイヌビワなどの常緑広葉樹、クロツグ・リュウキュウガキ・モクタチバナなどの低木、フウトウカズラやアリモリソウ・ホシダ・クワズイモなどが見られます。

これらは、島に残る自然林であり、琉球列島の代表的な低地型森林です。

**【津堅の唐踊り】**

旧暦８月９日～１５日に行われる８月遊びで演じられる男たちによる踊りで、元々は八月踊りと言われています。

小太鼓（パーランク）を打ち鳴らすもの、扇子をもって踊るものの両者で構成され、「大踊り」「いーそーに」の２曲で踊ります。

衣装は太鼓打ちがドゥジンバカマ（胴衣袴）、踊り手が芭蕉の着物を着ます。唐踊の名は、中国系の芸能ではなく、島人にとって意味不明の歌舞ということから名付けられたと考えられます。

## 7 中の御嶽

中の御嶽は、国森・クボウ・ヒガルの四御嶽のひとつです。

この御嶽には、「喜舎場子」の墓があります。

『遺老伝説』や島の言い伝えによると、中城郡喜舎場村の喜舎場子は、津堅島にたどり着き、ムラ立てをし、人々に日常生活の指導などを行い、豊かなムラづくりに貢献したと伝えられています。

ムラの人々は、喜舎場子を深く尊び、墓がある中の御嶽を津堅島の祖神として祀っています。

## 11 イサハッチャミの墓

津堅島の祖神「喜舎場子」が、島の美しい娘「イサハッチャミ」と恋仲になりました。それを知った喜舎場子の妻は、島を離れましたが真和志間切上間村で男子を出産しました。

喜舎場子の愛人「イサハッチャミ」に関する言い伝えは残っていませんが、イサハッチャミと呼ばれる墓は存在しています。

## 9 ヒガル御嶽

イービミンと呼ばれており、五穀豊作を祈願する拝所です。数十ｃｍ大のブロック製と海石製の小さな祠があります。

にんじん展望台

**遺跡**

1. 津堅貝塚
2. 津堅第二貝塚
3. 津堅第三貝塚
4. 新川グスク
5. クボウグスク
6. 津堅神山遺跡
7. 津堅国森御嶽遺跡
8. 津堅泊浜遺物包含地
9. 津堅ヤジリ浜貝塚
10. 津堅港原遺跡
11. 津堅和名浜貝塚
12. 津堅キガ浜貝塚
13. 新川・クボウグスク周辺の陣地壕群

**井泉**

1. アラカー
2. ホートガー
3. ウスガー
4. シンジャーガー
5. ミーガー
6. クラチャガー
7. イスチガー

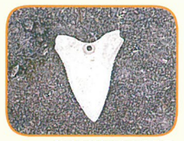
**民俗文化財・その他の文化財**

1. 灯台跡
2. 竜宮神
3. 国森の御嶽
4. 津堅殿内
5. カミヤマ（火の神）
6. クボウの御嶽
7. 中の御嶽
8. シヌグガマ
9. ヒガル御嶽
10. ペークガマ
11. イサハッチャミの墓

## 12 津堅キガ浜貝塚

津堅島の東海岸、標高約３ｍの砂丘上に広がる貝塚です。

縄文時代中期から弥生～平安並行時代の遺跡であり、縄文時代後期～晩期の竪穴住居跡が発見されています。サメの歯をまねた貝製品や「蝶形骨器」「竜形骨器」と呼ばれる精巧な彫刻を施した骨製品など特徴的な出土品があります。


サメの歯をまねた貝製品

竜形骨器

## 1 津堅貝塚

遺跡は津堅島の東南海岸のアギバマと呼ばれる砂丘に形成されています。弥生～平安並行時代の貝塚であり、出土した土器はほとんどが無文土器です。石器には石斧や敲石、貝製品には貝輪や匙があります。海獣類の骨を素材とした耳飾りなども発見され、イノシシの骨、魚の骨、貝殻が豊富に出土しています。

## 13 新川・クボウグスク周辺の陣地壕群

太平洋戦争で激戦の地となった津堅島には、自然の洞窟や岩山を利用した陣地壕群があります。

新川・クボウグスク周辺の陣地壕群には、司令部壕を取り巻くように、野砲陣地、カノン砲陣地などが造られています。

陣地壕群の一部は、戦後時間が経ち崩壊してしまいましたが貴重な戦争遺跡です。

## 3 国森の御嶽

標高約３９ｍの津堅島の最高地であった所にありました。神々へのお通し、区の繁栄を祈願するところです。セメント造りの小さな祠が設けられています。

**【津堅潮巻棒】**

津堅島の伝統芸能で、年忌行事や島をあげての慶事の際に五穀豊穣、豊漁など島の繁栄を願って演じられます。大海原やウミンチュの生きざまを、独特の棒の巻方で表現するダイナミックな踊りです。平成３年度の離島フェアで披露されて以来、復興に力を注いでいます。

## 1 灯台跡

明治２９年（１８９６）に島の南東カジチ崎に設置されたもので、高さ５丈３尺３寸、２人の灯台守りが配置されていましたが、戦争で爆破され、現在は土台だけが残っています。

## 2 津堅第二貝塚

１９７４年、個人住宅建築の際、偶然に埋葬人骨が掘り出されたため、沖縄県教育委員会により調査が行われました。弥生～平安並行時代の遺跡であり、無文や有文の土器、貝殻、獣魚骨（海亀、ジュゴン）などが発見されました。中でも注目を集めた埋葬人骨は、頭が北向きで、仰向きに埋葬され、両手を胸の上に組み、両足を内側に折り曲げていました。